

ロシア語動詞の体の個別的意味とアスペクトの意味の 対応関係に関する再整理の試み¹

Проблемы идентификации терминов, понятий и значений
в русской и общей аспектологии

阿出川 修嘉
Нобуйоси Адэгава

Аннотация

Целью данной статьи является упорядочение терминов и их понятий в русской и общей аспектологии.

В русской (славянской) аспектологии в соответствии с традиционными (классическими) способами описания значений глагольных слов видовое значение подразделяется на общее и частное. Общее значение вида — это самое абстрактное грамматическое значение, которое можно обнаружить во всех словоформах глагола того или иного вида в независимости от речевого контекста. А частное значение вида является более конкретным и может варьироваться в зависимости от контекста высказывания.

По Бондарко (1971) для совершенного вида различают всего 4 частных значения: конкретно-фактическое, наглядно-примерное, потенциальное и суммарное. А для несовершенного вида — 6 частных значений: конкретно-процессное, неограниченно-кратное и обобщённо-фактическое, постоянно-непрерывное, потенциально-качественное и ограниченно-кратное.

С другой стороны, с точки зрения общей лингвистики, категория «аспект» определяется как категория для определения действия (или ситуации вообще) с точки зрения его характера протекания во времени (по определению Плуноян 2011). После работы Комри (Comrie 1976) данную

1 本稿は、阿出川 (2014) において行った考察に、その後の考察を踏まえて加筆・修正等を施した上で新たに再構成したものである。

категорию стали описывать в разных языковых системах.

Плунгян (2011) делит аспектуальные значения на две группы: «первичный (линейный) аспект» и «вторичный (количественный) аспект».

К «первичному аспекту» относятся такие аспектуальные значения, как проспектив, инцептив, дуратив, прогрессив, комплетив, результатив, перфект. А ко «вторичному» — итератив, хабитуалис, мультипликатив, семьelfактив, дистрибутив.

Проблема состоит в том, какое значение из частных значений русского глагольного вида (по Бондарко 1971) охватывает то или иное аспектуальное значение, которое описано в общей лингвистике (по Плунгян 2011). В статье рассматривается совпадение каждого частного значения вида с рядом аспектуальных значений.

В работе Плунгян (2011) также вводится понятие «аспектуальные кластеры», которое характеризует языковую единицу глагола как способ для выражения нескольких подобных аспектуальных значений.

Автор настоящей статьи пытается охарактеризовать русские виды с помощью данного понятия, обсуждая, каким образом в языковой системе русского языка функционирует тот или иной вид в качестве «аспектуальных кластеров».

はじめに

現代ロシア語（以下単に「ロシア語」とする）の動詞には、主にアスペクトの意味を表す言語形式である『体 (вид)』という文法的カテゴリーが備わっている。このカテゴリーは、『完了体 (совершенный вид)』と『不完了体 (несовершенный вид)』という二項の対立からなるカテゴリーであり、ロシア語の動詞は全て完了体もしくは不完了体のどちらかのカテゴリーに属する。

伝統的に、ロシア語の体のカテゴリーをめぐる研究においては、動詞の語彙の意味と体の文法的意味とを便宜的に峻別して考えた上で、後者の意味（文法的意味）の、「個別の意味」と「一般の意味」について記述が試みられてきた。こうした記述は、ロシア語の体のカテゴリーの意味と用法を理解する上では一定の成果を上げてきたと考えられる²。

これらの、ロシア語をはじめとするスラヴ諸語を対象とした研究によって得られた成果も踏まえつつ、主に Comrie (1976) などの研究者の著作により、通言語的に観察されるカテゴリーとしての「アスペクト」が提案され、諸言語に見られる様々なアスペクトの意味が記述されてきている。

こうした流れの中において、一方で、一般言語学における「アスペクト」というカテゴリーによって表される種々の意味と、ロシア語の体のカテゴリーが表す文法的意味（「個別の意味」）とが、それぞれどのように対応していると考えられるのかといった点については改めて整理しておく必要があるだろう。

本稿の目的は、ロシア語動詞の体のカテゴリーが表す個別の意味（及びいくつかのケースでは動詞の語彙の意味も含みうる）と、通言語的な視点から見た場合のアスペクトの意味との対応関係の整理を試みるという点にある。ロシア語動詞の体の意味についての記述は主に Бондарко (1971) による記述に基づき、一方、通言語的な視点からのアスペクトの

2 そうした成果は、外国人学習者に対するロシア語教育の分野においても活かされており、代表的なものとしては Рассудова (1968, 1982) などが挙げられるだろう。氏の著作の理論的基盤は、基本的に Маслов や Бондарко といった研究者の論に依拠していると考えてよく、そこで提案されている個別の意味、一般の意味 (cf. 本稿以下の第1節) といった記述の方法も踏襲されている (cf. Рассудова1982: 5-19)。

意味については、主に Плунгян (2011) における記述に基づいて、その対応関係を考察する。

以下本稿では、次の第1節において、ロシア語動詞の体の意味に関する伝統的な記述に従う形で、体の個別の意味について概観する。次に、一般言語学的な視座から種々のアスペクトの意味について確認し、それらの意味がロシア語においてはどのような言語形式によって表現されるかについて見る (cf. 第2節)。そして、第3節において、ロシア語動詞の体のカテゴリーは、通言語的な視点からどのように特徴付けることができるかを考察する。

1. ロシア語動詞の体の個別の意味

1.1. 体のカテゴリーなどの文法単位の個別の意味と一般的意味

上でも述べた通り、ロシア語動詞は「体」のカテゴリーを有しており、動詞の意味は「語彙的意味」と「体の意味」とで構成されている。伝統的な体の研究においては、体のカテゴリーの文法形式が表す文法的意味(「体の意味」)を、『一般的意味(общее значение)³』と『個別の意味(частное значение)』とに分けて考える。

「個別の意味」とは、個々の文(発話)において、ある特定の条件において現れてくる意味を指す。それに対して、「一般的意味」とは、ある文法形式が、あらゆる用法において、共有して持っていると考えられる意味のことである (cf. Зализняк и Шмелев 2000: 18)⁴。

この最も抽象度の高い文法的意味(=一般的意味)がどのようなものかという点については、これまで多くの提案がなされてきているものの、最終的な解決には至っておらず、未だ議論の決着を見ていない⁵。ここでは、

3 あるいは『不変の意味(инвариантное значение)』、『不変体(インヴァリアント; инвариант)』とも。

4 「一般的意味」は、統語論的、意味論的文脈などの可変的要素を排除した後に残る、当該の文法形式(ここでは体のカテゴリー)に共有されている、抽象度の高い意味を指すので、より「ラング」の側に近い意味であると考えられる。それに対して、「個別の意味」は、より「パロール」の側に近い意味であると考えてよいだろう。

5 これまで提案されてきたものとしては、動作の『終了性(законченность действия; ある動作が終了点にまで到達したことを表す)』、『限界性(предельность действия; ある動作が限界に到達したことを表す)』、『結果性(результативность действия; ある動作の結果を表す)』、『点

個々の文において観察される、より具体的な意味である、個別の意味をまず取り上げることとする。

次節以降で、完了体及び不完了体のそれぞれの個別の意味について見ていこう。

1.2. 完了体の個別の意味

Бондарко (1971) では、以下を完了体の個別の意味として挙げている (1971: 22-24) :

- ① 具体的事実の意味 (конкретно-фактическое значение)
- ② 例示の意味 (наглядно-примерное значение)
- ③ 潜在的動作の意味 (потенциальное значение)
- ④ 一括化の意味 (суммарное значение)

それぞれに対応する例文を見ながら、これらの意味について見ていくことにしよう⁶。

まず、「①具体的事実の意味」から見て行こう。

- (1) Скоро вернется [PFV-PRS-3SG]⁷. Пройдите [PFV-IMP-PL], подождите [PFV-IMP-PL].

すぐに戻りますので。どうぞお入りになってお待ち下さい。

状況 (точечность действия; ある動作の開始と終了が点のように一致していることを表す)』、『全一性 (целостность действия; ある動作の開始、中盤、終了のそれぞれが一体のものとしてみなされていることを表す)』などが挙げられる。

- 6 例文はそれぞれ当該文献から引用したものである。その際当該文献内の記述に際して例文が複数挙げられている場合には、筆者の判断で取捨選択している。
- 7 以下本稿のロシア語例文内では、議論となっている動詞 (及び日本語の訳文中の対応部分) には下線を施し、その後の角括弧内に動詞の形態論的信息に関する簡易的なグロスを付する。文法情報はスモールキャピタルで示し、それぞれの略語が表す文法情報は以下の通り。加えて、アラビア数字の1~3を付することにより人称を示している場合がある (例: 3SG = 3人称単数) :

IPFV = 不完了体, PFV = 完了体, PRS = 現在形, PST = 過去形, FUT = 未来形, IMP = 命令形, PTCP = 分詞形, SG = 単数, PL = 複数, M = 男性形, F = 女性形

この意味は、「具体的な⁸、単一の事実（конкретный единичный факт）」を表す（Бондарко 1971: 22）。

次に「②例示の意味」について確認しよう。

- (2) Иногда весной бывает так: налетит [PFV-PRS-3SG] буря, погуляет [PFV-PRS-3SG] часа два-три и так же неожиданно затихнет [PFV-PRS-3SG], как началась.

春にはこういうことが時折あるものだ。嵐が巻き起こり、二三時間にわたってそれは駆け巡ったかと思うと、巻き起こった時と同じように、不意に止んでしまったりする。

この意味では、反復する動作が表される。その際、反復する複数の動作のうち一つを、その動作の具体的なイメージを与えるための「例」として取り上げることで表現する（Бондарко 1971: 22）。

下の例に見られるような、「③潜在的動作の意味」では、潜在的な可能性が表現される。ある特定の一時点に属するものではなく、いかなる時点においても生じうるような、可能性、必要性などについて述べられている文脈において現れる。

- (3) Женщины! Женщины! Кто их поймет [PFV-PRS-3SG]?
女よ！女よ！一体誰があの人たちを理解できようか？

動詞の形態は、多く、完了体の未来形（非過去形）あるいは不定詞の形態で現れ、否定を伴うことも多い。この意味は、上で見た「例示の意味」と近い意味であるとされる（Бондарко 1971: 23）。

次に、「④一括化の意味」について、以下のような例で見ることができる。

- (4) Равняясь с ними, Алексей мигнул [PFV-PST-SG-M] раз пять подряд.
彼らに追いつきながら、アレクセイは五度ほど立続けに瞬きました。

8 ここでの「具体的」という語の意味するところとしては、「時間軸上の特定の位置に属する（配される）」ということが念頭に置かれていると考えてよいだろう。

この意味が現れる場合には、「два раза (二回)」、「трижды (三回)」、「несколько раз (何度か)」といった回数を表す指標を伴う (Бондарко 1971: 24)。

1.3. 不完了体の個別の意味

Бондарко (1971) では、以下を不完了体の個別の意味として挙げている (1971: 24-36) :

- ① 具体的過程の意味 (конкретно-процессное значение)
- ② 制限のない多回性の意味 (неограниченно-кратное значение)
- ③ 一般的事実の意味 (обобщенно-фактическое значение)
- ④ 恒常的・不断の動作の意味 (постоянно-непрерывное значение)
- ⑤ 潜在的・性質の動作の意味 (потенциально-качественное значение)
- ⑥ 制限のある多回性の意味 (ограниченно-кратное значение)

前節と同様に、対応する例文を見ながらそれぞれの個別の意味を確認して行こう。

まず「①具体的過程の意味」である。

- (5) Ел [IPFV-PST-SG-M] Мирон Лукич разборчиво, привередливо и скоро отодвинул тарелки.

ミローン・ルキーチは選り好みをして食べていたが、好き嫌いを言う
てすぐに皿を押しやった。

これは、具体的な、つまり時間軸に一定の位置を占め、且つ動作がその完遂に向かって進行している過程にあるものとして動作を提示する (Бондарко 1971: 24)。

「②制限の無い多回性の意味」は以下のような例で見ることができる。
これは無制限に反復する動作を表す (Бондарко 1971: 27) :

- (6) Зимой гостила [IPFV-PST-SG-F] иногда в усадьбе странница Машенька...

冬に時々領地に客として逗留していたのは、さすらい人のマーシェ

8 阿出川 修嘉

ニカであった。

下の例に見られる「③一般的事実の意味」は、当該動作があるのか無いのか（あったのか無かったのか）を表すというのがその基本的な意味である（Бондарко 1971: 29）：

- (7) Ко мне сам Никодим Палыч Кондаков обращался [IPFV-PST-SG-M], и я его вылечил.

ニコヂム・パーヴロヴィチ・コンダコフが自分で私のところに診察を受けに来たことがあって、治療してあげたんだ。

下例に見られる「④恒常的・不断の動作の意味」は、完遂の途上にある動作が、途切れることなく恒常的に進行していることが表される。Бондарко（1971）では、この意味では、反復するのでもなく、途切れるわけでもなく、長い期間を覆うように、「一枚の岩のような」動作が表されるとしている（Бондарко 1971: 30）：

- (8) Говорят—жизнь быстро движется [IPFV-PRS-3SG] вперед...

人生というものは足早にただただ前に進んでいくのだという。

「⑤潜在的・性質的動作の意味」について見てみよう：

- (9) А ты и на скрипке играешь [IPFV-PRS-2SG]?

バイオリンも弾ける？

この意味では、主体の持つ性質や特徴としての動作を潜在的な可能性として提示する（Бондарко 1971: 28）。

下の例に見られる、「⑥制限のある多回性の意味」は、先の、完了体の「一括化の意味」の場合と同様に、「два раза（二回）」「трижды（三回）」「несколько раз（何度か）」といった回数を表す指標を伴って、(有限の回数)反復する動作が表される（Бондарко 1971: 31）。

- (10) Два раза выпадал [IPFV-PST-SG-M] зазимок, насыпал сугробы.
二度雪が降って、雪の山を作った。

2. Плу́нган (2011) によるアスペクトの意味の記述

2.1. 概要

本節では、一般言語学的な立場からの「アスペクト」の意味について、Плу́нган (2011) の記述に沿って見ていく。

Плу́нган (2011) では、アスペクトのカテゴリーを、「状況を、時間におけるその進行の性質という観点から規定するもの」であるとしている (Плу́нган 2011: 377)。

Плу́нган (2011) では、アスペクトを『一次的アスペクト (первичный аспект)』と『二次的アスペクト (вторичный аспект)』とに分けて記述を試みている。

「一次的アスペクト」とは、『線状的アスペクト (линейный аспект)』とも呼ばれ、状況の「断片 (фрагмент)」を指し示すものである。アスペクトというカテゴリーの発生の過程において原初的なアスペクトであるとされる。

それに対して「二次的アスペクト (вторичный аспект)」は、『数量的アスペクト (количественный аспект)』とも呼ばれ、当該状況の捉え方の変更を伴うもので、主にその回数性について指し示すものである。

管見によれば、下で見るように、「一次的アスペクト」は、動作 (状況) の『位相 (фаза; phase)』⁹ の存在が前提とされているのに対して、「二次的アスペクト」はそのような「位相」への分割が前提とされていないという点で質的に異なっていると言えるだろう。

以下では、「一次的」、「二次的」それぞれのアスペクトについて見ていくことにしよう。

9 「進行している時間における、ある任意の時点の状況」(Comrie 1976: 48) を指す。通常、『開始相 (начальная фаза)』、『中間相 (серединная фаза)』、『終了相 (конечная фаза)』の三つが想定され、これらの「相」から当該状況が構成されていると捉える。

2.2. 一次的アスペクト

2.2.1. 「状況」の構造モデル

下図は、Плунгян (2011) における記述に基づいて、筆者が「状況」を模式図として示したものである¹⁰。

「一次的アスペクト」とは、この「状況の構造モデル」における、「状況」を構成している各部分(①～⑤)を指し示すものである。時間軸を一定方向に伸びていく線と捉え(下図では左から右へ伸びていく様子を矢印で示している)、それに沿って進行(あるいは進展)していく「状況」を対象としているという意味で、「線状のアスペクト」とも呼ばれていると考えられるが、この「時間の線状性」それ自体は、我々の感覚に照らしてみてもそう大きな乖離はないだろう。

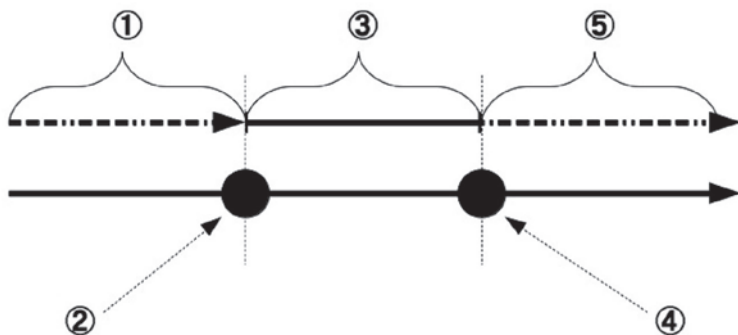


図1: 「状況」の構造モデル

Плунгян (2011) によれば、自然言語における「状況」を捉える際には、その「状況」を構成する、以下の五つの部分¹¹が最も重要であるという(Плунгян 2011: 384; 以下の丸数字は上図内に示した丸数字と一致している):

¹⁰ 本図の初出は阿出川 (2014) である。なお、下図では、二本の線分が上下に並置されているが、これは図が煩雑になるのを避けるための便宜的な措置であり、線分の本数は問題ではない。

¹¹ Плунгян 自身は、「状況の断片 (фрагменты ситуации)」という表現をしている (Плунгян 2011: 384)。

- ① 準備の段階 (подготовительная стадия)
- ② 開始点 (начало)
- ③ 中間 (середина)
- ④ 終了点 (финал)
- ⑤ 結果の段階 (результативная стадия)

①の「準備の段階」とは、「ある状況がこれから生じるという特徴 (予兆) が存在している状態」を指す。

②の「開始点」とは、「ある状況が生じていない状態から、生じている状態へ移行する瞬間」である。

③の「中間」とは、上の「開始点」と、下の「終了点」との間を指す。

④の「終了点」とは、②の「開始点」とは逆に、「ある状態が生じている状態から、生じていない状態へ移行する瞬間」を指す。

⑤の「結果の段階」とは、「ある状況が終了したあとに生じる状態」を指す。

また、上述の②～④は、「内部ステージ (внутренние стадии)」とされ、①と⑤は、「外部ステージ (внешние стадии)」とされる。

2.2.2. 構造モデルと一次的アスペクト

一次的アスペクトは、上図の「状況」の構造モデル (以下「モデル図」とする) 内のどの部分を示すかに応じて、まず、「外部ステージ」に関わるアスペクトと、「内部ステージ」に関わるアスペクトに大きく分類することができる。

そのうち、「外部ステージ (モデル図内の①及び⑤)」は「内部ステージ (同②～④)」の前後に位置しているので、「内部ステージ」の前に配されるもの (同①) を「外部ステージ A」、後に配されるもの (同⑤) を「外部ステージ B」と便宜的に呼ぶことにする。

また、「内部ステージ」は、状況の開始点 (同②)、状況の終了点 (同④) とそれらに挟まれている中間部分 (同③) によって構成されている。

「外部ステージ A (モデル図内①)」に関わるアスペクトは、「予期・予測のアスペクト (проспектив)」である。これは例えば、英語の「be going to (do)」、「be about to (do)」、「be on the point of (doing)」などの形式

によって表されるアスペクトである (cf. Comrie 1976: 64)。

「内部ステージ (同②～④)」に関わるアスペクトのうち、開始点 (同②) に関わるアスペクトは、「起動相 (инцептив)」及び「示点相 (пунктив)」である¹²。

「中間部分 (同③)」に関わるアスペクトには、「持続相 (дуратив)」と「進行相 (прогрессив)」が含まれる。「持続相」は、当該状況が、静態的な「状態」の場合でも、動態的な「プロセス」の場合でも用いられる表現であるのに対して、「進行相」は、動的で且つ持続している状況を表すのに限って用いられる表現である。

「終了点 (同④)」に関わるアスペクトには、「終結相 (комплетив)」と「示点相 (пунктив)」が含まれる¹³。「終結相」は、何らかの限界性を有する当該状況がその自らの限界点・終結点に到達したことを表すアスペクトである。

「外部ステージ B (同⑤)」に関わるアスペクトには、「結果相 (результатив)」と「パーフェクト (перфект)」が含まれる。「結果相」は、当該状況 (動作) が帰結した結果の状態しか指せない (つまり「状況」とその帰結としての「状態」との間の意味的・論理的な結び付きが強い) のに対して、「パーフェクト」の場合には、当該状況 (動作) と、意味的・論理的な結び付きが直接無いような「状態」でも描写することができるという点において両者は異なっている (cf. Плу́нзян 2011: 389)。Comrie (1976) は、この「パーフェクト」の意味について、「回顧的 (retrospective)」であるとしている。これは、この意味が、ある時点の状態と、それよりも先行して生じた状況との間に、何らかの関係性を持たせるからである (Comrie 1976: 64)。

これらをまとめると、以下のように示すことができるだろう。

-
- 12 類似の概念として、「инхоатив」と「инцептив」があり、多くの場合日本語の訳語としてはどちらも「起動相」という訳語が充てられている。厳密には、前者は「動作の開始」を表し、後者は「状態の開始」を表す (Плу́нзян 2011: 396)。
- 13 ここで、「示点相」という術語が、開始点に関わるアスペクトと終結点に関わるアスペクトの双方に対して用いられている。この術語によって示されるのは、当該状況の開始点 (上図構造モデルの②)、同終了点 (同④)、当該状況全体 (開始点と終了点が一致しているような場合、すなわち瞬間的な動作・状況の場合) である。以降本稿ではこれらの混同を避けるためにこの術語は原則として採用しない。

表 1：構造モデルと一次的アスペクトの分類

アスペクト（大分類）		アスペクト（下位分類）
状況の外部ステージ A（モデル図①）に関わるアスペクト		予期・予測のアスペクト
状況の内部ステージ に関わるアスペクト	開始点（同②）に関わるアスペクト	起動相（示点相）
	中間部分に関わるアスペクト（同③）	持続相、進行相
	終結点（同④）に関わるアスペクト	終結相（示点相）
状況の外部ステージ B（同⑤）に関わるアスペクト		結果相、パーフェクト

以下では、これらのアスペクトが、ロシア語においてそれぞれどのような言語形式で表現されるかについて見ていくことにしよう。

2.2.3. 一次的アスペクトとロシア語におけるその表現¹⁴

まず、状況の外部ステージ A を示すために用いられるアスペクトが「予期・予測のアスペクト」である。ロシア語の体系には、このアスペクトを表す文法形式は用意されていない。

Comrie (1976) では、英語の「be going to (do)」によって表されるアスペクトと類似の表現として下のような例文が挙げられている：

(11) Я собираюсь убить [PFV-INF] тебя. お前を殺すつもりだ。

(12) Поезд должен прийти [PFV-INF] в семь часов.

列車は7時に来ることになっています。

上例中、それぞれ波線部の語と下線部の不定形との組み合わせによって当該アスペクトに類似した意味が表されるが、Comrie (1976) では、いずれの例も「予期・予測のアスペクト」という文法的意味以外の意味が加わってしまっているため、ロシア語のこれらの形式が、純粋な「予期・予測のアスペクト」の形式であるとは見なしていない (Comrie 1976: 65)。

次に、「内部ステージに関わるアスペクト」について見ていこう。

14 この節におけるアスペクトとロシア語における表現の対応については、Храковский (2002) による体の意味の分類も考慮に入れている。Храковский (2002) では、上述の「位相」の概念に基づき、「開始相」、「中間相」、「終了相」の組み合わせに応じて体の意味の記述・分類を試みている。

まず、状況の開始点（モデル図内の②）に関わるアスペクトは「起動相」である。これに相当するものは、以下の二種類と考えると差し支えないだろう：

- イ) 「開始の動作様態 (начинательный способ действия)¹⁵」を表わす完了体動詞: закипеть (沸騰しだす), заболеть (痛みだす), заснуть (寝入る) など
- ロ) その他の完了体動詞: увидеть (わかる), понять (理解する) など

次に、モデル図内の③、「内部ステージ」を表すのは、「進行相」と「持続相」である。これらの表現には、ロシア語では不完了体が用いられる。

(13) Они смотрят [IPFV-PRS-3PL] на нас. 彼らは僕らの方を見ている。

(14) Она сидела [IPFV-PST-SG-F] у окна. 彼女は窓のそばに座っていた。

上で見た、不完了体の個別的意味のうち、「具体的過程の意味」、「恒常的・不絶の動作の意味」もこの相を表すものと考えてよいだろう。

そしてモデル図内の④、状況の終結点を表すアスペクト（終結相）を表す形式は、以下の二種類であろう：

- イ) 「終了の動作様態 (финитивный способ действия)」を表わす完了体動詞: отцвести (咲き終わる), отговорить (話をやめる), отбегаться (走り終わる), отстреляться (射撃をやめる) など

15 『動作様態 (способ действия ; 「動作様式」とも)』とは、動詞の語彙・文法的な分類である。接頭辞、後接辞などの形態素によって、当該動詞が表す動作に、時間的な意味、結果の意味などの意味要素が加えられた一連の動詞を指す (cf. Энциклопедия 1996: 530)。術語に関しては、研究者によっては、「動詞の動作様態 (способ глагольного действия)」という術語が用いられることもある (Энциклопедия 1996, Петрухина 2009 など)。また、頭文字をとって「СД」または「СГД」と略号で示される場合がある。

動作様態の分類は研究者によって異なっている。例えば、Энциклопедия (1996) では、16 の分類が提案されている (Энциклопедия 1996: 530-532)。Зализняк и Шмелев (2000) では、主要なものとして 15 の分類が提案されている (2000: 104-127)。Авилова (1976) では、「時間に関わる動作様態」として 4 分類、「数量に関わる動作様態」として 10 分類、「特殊な結果性を表す動作様態」として 5 分類の、合計 19 の分類が提案されている (1976: 259-316)。

なお、本文で触れているそれぞれの動作様態に対しては日本語の訳語は定まっておらず、本文で採用している訳語も、筆者による試訳である。

- ロ) 接頭辞「раз-」を伴ういくつかの完了体動詞: разлюбить (嫌いになる) など

そして、上表中の⑤、「外部ステージ B に関わるアスペクト」のうち、「結果相」は、動詞の単一の文法的カテゴリーによって表現されるのではなく、以下のような、分詞¹⁶を用いた表現が対応している：

- (15) Дверь открыта [PFV-PTCP-SG-F]. 窓が開いている。

対して、「パーフェクト」の意味を表す言語形式は、ロシア語では過去時制で用いられる完了体であると考えてよいだろう。先の個別的意味の中では、「具体的事実の意味」によって表されるニュアンスであると考えられる：

- (16) Кто-то открыл [PFV-PST-SG-M] окно. 誰かが窓を開けちゃったんだな。

2.2.4. まとめ：一次的アスペクト

本節では、一次的アスペクトの種類と、それらがロシア語においてはどのように表現されるかについて確認した。下表のようにまとめることができるだろう。

16 ロシア語学における伝統的な術語では「形動詞」と呼ばれるもの。「形容分詞」とも。

表 2：一次的アスペクトの種類とロシア語におけるその表現手段

一次的アスペクト		対応するロシア語の表現手段	
外部ステージ A に関わるアスペクト (モデル図内①)		予期・予測のアスペクト (проспектив) なし	
内部ステージに関わるアスペクト	状況の開始点に関わるアスペクト(同②)	起動相 (инцептив) 完了体動詞 (開始の動作様態など)	
	内部ステージ(同③)	持続相 (дуратив)	
		進行相 (прогрессив)	不完了体動詞 (個別の意味)
状況の終結点に関わるアスペクト(同④)	終結相 (комплетив)	完了体動詞 (個別の意味、終了の動作様態など)	
外部ステージ B に関わるアスペクト (同⑤)		結果相 (результатив)	分詞
		パーフェクト (перфект)	完了体動詞 (個別の意味)

2.3. 二次的アスペクト

2.3.1. 二次的アスペクトとその種類

次に、二次的アスペクトについて見ていくことにしよう。

ある動詞の「状況の性質¹⁷ (便宜的に X とする)」が、別の異なる「状況の性質 (同 Y)」に変化する、あるいは異なる状況の性質の一部 (同 X') を表すように変化することで、アスペクトの形式が表す意味にも変化が生じることがある (cf. Плу́нган 2011: 395)。

元々の「状況の性質 (X)」を「一次的」なものとする、そこから変化した「状況の性質 (Y)」は、X とは異なる、「二次的」なものとい

17 ここで「状況の性質」としているのは、いわゆる「акциональность (actionality)」と呼ばれているものを念頭に置いた筆者による試訳である。古くは Vendler (1967) などによる「活動 (activities)」、「達成 (accomplishments)」、「到達 (achievements)」、「状態 (states)」などの分類に端を発するもので、言語外現実である「状況」が、概念化・言語化される際に備える意味的な特徴づけである (cf. Татевосов 2010: 3)。

となる。このそれぞれに応じて、アスペクトの意味も一次的なものから二次的なものへと変化しうることになる。

二次的アスペクトとして、Плунгян (2011) は以下のものを挙げている (cf. Плунгян 2011: 395-402)。

表 3：二次的アスペクト

アスペクト	表される意味
反復相 (итератив)	ある状況 (動作) が、ある一定の期間において、反復することを表す。
習慣相 (хабитуалис)	定期的に反復される状況 (動作) を表す。それにより当該状況の主体の特徴付けが行われる場合がある。
多回相 (мультипликатив)	多数回にわたって反復する状況 (動作) を表す。
単一相 (семельфактив)	当該状況 (動作) の単一量を表現する。
配分相 (дистрибутив)	次々と、連続して同種の状況 (動作) が生じることを表す。

2.3.2. 二次的アスペクトとロシア語におけるその表現

これらの二次的アスペクトは、ロシア語においてはどのような言語形式で表現されているだろうか。

まず、「反復相」、「習慣相」、「多回相」については、上述の不完了体動詞の個別の意味 (cf. 1.3.) の一つである「制限のない多回性の意味」、「制限のある多回性の意味」によって表すことが可能である。

また、これらは『多回性を表す動作様態 (многokратный способ действия)』を表す不完了体動詞によっても表される。「-ыва- / -ива-」、「-ва-」 「-а-」といった形態素によって表される (例: хаживать, сиживать, певать, едать など¹⁸; cf. Зализняк и Шмелев 2000: 121-122)¹⁹。

「単一相」は、まず完了体の個別の意味のうち、「具体的事実の意味」 (cf.

18 それぞれ, ходить (行ったり来たりする, 歩き回る), сидеть (座っている), петь (歌う), есть (食べる) という動詞によって表される動作が多数回行われることを示す。

19 これらは従来、「多回体 (многokратный вид)」とも呼ばれているものである。

1.2.) によって表されるものが該当するだろう。また、『一回性を表す動作様態 (однократный способ действия)』を表す完了体動詞によって表される。「-ну-」²⁰(例: толкнуть 押す)、「-ану-」(例: стегануть 鞭を打つ)、「с-」(例: сжувльничать インチキをする)、「с- ... -ну-」(例: сполоснуть 軽く洗う) といった形態素によって表される (cf. Зализняк и Шмелев 2000: 118-120)。

「配分相」は、『配分を表す動作様態 (дистрибутивный способ действия)』を表す完了体動詞によって表される。「пере-」(例: переглотать 次々と飲み込む, перегаснуть 次々と消える)、「по-」(例: повывести 次々と導き出す, померзнуть 多数の人が凍死する) といった形態素によって表される (cf. Зализняк и Шмелев 2000: 124-125)。Плунгян (2011) では下のような例文が挙げられている (2011: 221) :

(17) Все поразъехались [PFV-PST-PL] кто куда.

皆それぞれ思い思いの所へ出かけた。

(18) Он перечитал [PFV-PST-SG-M] все, что нашлось в библиотеке.

彼は図書館にあったものを全て読み返した。

これらのアスペクトは、完了体、不完了体それぞれの個別的意味以外にも、特定の動詞語彙 (動作様態) を有する動詞によって表されていることが分かる。

2.3.3. まとめ：二次的アスペクト

ロシア語においては、二次的アスペクトは下表に示すような手段によって表されると考えて良いだろう。

20 この形態素を含む動詞は、従来「一回体 (однократный вид)」とも呼ばれているものである。

表 4：二次的アスペクトの種類とロシア語におけるその表現手段

アスペクト	ロシア語における表現手段
反復相	不完了体動詞（個別的意味）
習慣相	不完了体動詞（個別的意味）
多回相	不完了体動詞（個別的意味、多回性を表す動作様態）
単一相	完了体動詞（個別的意味、一回性を表す動作様態）
配分相	完了体動詞（配分を表す動作様態）

3. ロシア語動詞の体はどのように特徴付けられるか

3.1. 体の個別的意味とアスペクトの意味、一次的・二次的アスペクトの 対応関係

ここで体の個別的意味（cf. 第1節）とアスペクトの意味との対応関係について整理してみよう。体の個別的意味、第2節で見た種々のアスペクトの意味、それらを表す体の形態、体の別、一次的・二次的アスペクトの別の対応関係についてまとめると下表のようになる（それぞれの個別的意味の前に付してある丸数字は第1節での提示順に応じている）。

表 5：体の個別的意味とアスペクトの別の対応関係

個別的意味	アスペクトの意味	表す形式（体）	一次／二次的アスペクト
①具体的過程の意味	進行相	不完了体	一次
④恒常的・不断の動作の意味	持続相		
①具体的事実の意味	起動相、終結相、 パーフェクト	完了体	二次
	単一相		
②例示の意味	反復相、習慣相		
③潜在的動作の意味	反復相、習慣相		
④一括化の意味	反復相、多回相		
②制限のない多回性 の意味	反復相、習慣相、 多回相	不完了体	
③一般的事実の意味	— ²¹		
⑤潜在的・性質的動作 の意味	反復相、習慣相		
⑥制限のある多回性 の意味	反復相、多回相		

特徴的なもののうちの一つとして、完了体の表す「①具体的事実の意味」が挙げられる。これは、一次的アスペクト（起動相、終結相、パーフェクト）と二次的アスペクト（単一相）の双方を表すと考えられる。

完了体の「②例示の意味」及び「③潜在的動作の意味」の意味、また不完了体の「⑤潜在的・性質的動作の意味」については、いずれも「反復相」、「習慣相」を表していると考えられるだろう。

3.2. アスペクトのクラスターとロシア語動詞の体

3.2.1. アスペクトのクラスター

前節までで、ロシア語動詞の体の個別的意味、また一般言語学的な視

21 この「一般的事実の意味」がどのようなアスペクトの意味を表すと考えられるかについては別途検討が必要である。本稿以下の「今後解決されるべき主要な課題」の節を参照されたい。

点からのアスペクトの意味について確認してきたが、これらを踏まえた上で、ロシア語動詞の体のカテゴリーはどのように特徴付けることが可能だろうか。

Плунгян (2011) では、『アスペクトのクラスター (аспектуальные кластеры)』という概念が提案されている。これは、それぞれ近似のアスペクトの意味が組み合わせられる形で、多義性を持ったひとつの文法形式によって表されるという現象である (cf. Плунгян 2011: 402)。これは、それぞれのアスペクトの意味に、言語形式をひとつずつ割り当てていると、いわゆる経済性の法則に反してしまうという言語体系内の事情から生じてくる自然な現象であると思われる。

Плунгян (2011) では、このような「アスペクトのクラスター」として、『完了相 (перфектив)』、『未完了相 (имперфектив)』、『未終結相 (инкомплетив)』、『Factative (фактатив)』²² の四つの「クラスター」が提案されている。それぞれのクラスターが表しうるアスペクトの意味は異なっている (cf. Плунгян 2011: 402-406)。Плунгян (2011) によって示されているクラスターとそれぞれに含まれているアスペクトの意味は下表のようにまとめることができる²³：

表6：Плунгян (2011) におけるアスペクトのクラスター

アスペクトのクラスター	含まれているアスペクトの意味	
	一次的アスペクト	二次的アスペクト
完了相	示点相、終結相、起動相、 限定相	-
未完了相	持続相	習慣相
未終結相	結果相、進行相	-
Factative	完了相 (終結相、示点相)、 持続相	-

上で述べたように、Плунгян (2011) の指摘によれば、「完了相」及び「未完了相」というのは、それぞれ単一のアスペクトの意味を指している

22 資料不足のため、日本語の訳を見つけることができなかった。

23 アスペクトの意味については、筆者の判断で一次的・二次的アスペクトに分類した上で整理している。

のではなく、お互いに類似した複数のアスペクトの意味が抱合されたものを指している (Плунгян 2011: 402-403)。

まず、『完了相 (перфектив; perfective)』は、「示点相 (пунктив)」、「終結相 (комплетив)」、「起動相 (инцептив)」、「限定相 (лимитатив)」といった一連のアスペクトの意味が含まれたものである。つまり、それ自体の構造が、複雑に入り組んでいるような「状況」(あるいはそうした状況のある一部分)を、そうした複雑な内部の構造については触れずに、より原初的な「出来事」として、まとめあげる形で表すのが「完了相」による提示の仕方であると考えられる (cf. Плунгян 2011: 396)。

それに対して、『未完了相 (имперфектив; imperfective)』は、先に見た構造モデルの内部ステージを表す、すなわち、「持続相 (дуратив)」(＝一次的アスペクト)と、「習慣相 (хабитуалис)」(＝二次的アスペクト)の双方を表すことのできるアスペクトであると位置付けることができる。

ここで述べた、「完了相」及び「未完了相」は、Comrie (1976) におけるアスペクトの記述においてもまず設定されている大きな分類であり、多くの言語に見られるアスペクトを表す言語形式の対立である。

3.2.2. アスペクトのクラスターとしてのロシア語動詞の体

それでは、ロシア語動詞の体のカテゴリーは、いわゆる「アスペクトのクラスター」であると特徴づけることができるだろうか。先の第2節で見た、一次的・二次的それぞれのアスペクトの表現が、ロシア語動詞の完了体と未完了体のそれぞれの形態にどのようにあてがわれているかをここで確認しておこう。

完了体に対しては、一次的アスペクトとして起動相、終結相、パーフェクトが、二次的アスペクトとしては単一相、配分相があてがわれている。未完了体に対しては、一次的アスペクトとして持続相と進行相が、二次的アスペクトでは反復相、習慣相、多回相があてがわれている。これらをまとめると下表のように示すことができるだろう。

表 7：クラスターとしてのロシア語動詞の体

表す形式 (体)	アスペクトの意味	
	一次的アスペクト	二次的アスペクト
完了体	起動相、終結相、パーフェクト	単一相、配分相
不完了体	持続相、進行相	反復相、習慣相、多回相

前節で見た通り、近似のアスペクトの意味が組み合わされることで当該言語形式が多義性を有するようになりクラスターを形成すると考えられるが、ロシア語の体のカテゴリーはそれぞれ上表に示された種々のアスペクトの意味を表すのに用いられていることがわかる。このことから、ここで完了体、不完了体のそれぞれにあてがわれているアスペクトの意味には、何らかの「共有されている意味」が存在するということになる。その「共有されている意味」こそが、完了体及び不完了体の「一般的意味」と考えられる。従来なされてきた、ロシア語の体の意味の一般的意味の探究とは、まさにそうした「共有されている意味」を記述するという試みであり、これらのアスペクトの意味の共通要素を探ることを通して、体のカテゴリーの一般的意味の記述にもつながっていく可能性があるだろう。

本稿のまとめと今後の課題

本稿のまとめ

本稿では、従来行われてきたロシア語動詞の体のカテゴリーの表す意味の記述と、一般言語学の立場からのアスペクトの意味の定式化とを相互に関連づけることを試みた。

第一節では、伝統的なロシア語の体の意味の記述に則り、完了体、不完了体のそれぞれの個別的意味について確認した。

第二節では、Плунгян (2011) の記述に依拠する形で、アスペクトの意味を「一次的アスペクト」と「二次的アスペクト」に分類した上で、それぞれのアスペクトの意味が、ロシア語ではどのような言語形式で表されるかという対応関係について見た。種々のアスペクトの意味が、動詞の体のカテゴリー（その個別的意味）による表現（持続相、進行相；反復相、習慣相、多回相、単一相）、動詞の分詞という形態による表現（結

果相)、各種の「動作様態」による表現（起動相、終結相;多回相、単一相、配分相）というように、それぞれ異なる言語手段によって表現されていることを確認した。

第三節では、やはり Плу́нган (2011) の記述から「アスペクトのクラスター」という概念を援用し、ロシア語の体のカテゴリーの特徴づけを試みた。「アスペクトのクラスター」とは、それぞれ異なるが近似しているアスペクトの意味を、単一の言語形式が担うという言語体系内の現象だが、ロシア語の体のカテゴリーをこの「クラスター」として捉えた場合に、どのように特徴付けることができるかについて検討した。ロシア語の完了体は、起動相、終結相、パーフェクト、単一相、配分相といったアスペクトの意味を表すことができ、一方不完了体は、持続相、進行相、反復相、習慣相、多回相の意味を表すことができる。

今後解決されるべき主要な課題：不完了体の「一般的事実の意味」の扱いについて

上の表5中において示したように、不完了体の個別的意味の「一般的事実の意味」については別途考察が必要であろう。

この意味は、第1節で見た通り、「当該動作があるのか無いのか（あったのか無かったのか）を表す」というのがその基本的な意味・機能である（下例(20)は例(7)の再掲）。以下のような例が典型的な例である。

(19) Вы читали [IPFV-PST-PL] «Анну Каренину»?

あなたは「アンナ・カレニナ」を読んだことがありますか？

(20) Ко мне сам Никодим Палыч Кондаков обращался [IPFV-PST-SG-M], и я его вылечил.

ニコヂム・パーヴロヴィチ・コンダコフが自分で私のところに診察を受けに来たことがあって、治療してあげたんだ。

この場合、当該動作（あるいは「状況」）は、完結しているのかしていないのか、あるいは反復しているのかそうではないのか、といったことは問題にはされておらず、当該動作があったかなかったか、あるかないか（生じるか生じないか）だけが問題となっている。この不完了体動詞は、

当該動詞によって示される「動作事実の伝達 (передача факта действия)」に用いられる (cf. Рассудова 1982: 40-45)。

また、この意味・用法の記述をめぐる難しさは、様々な時制形態で用いられるという点にもあるだろう。上で挙げた過去時制の用例以外にも、以下のような例が「一般的事実の意味」として分類・記述されている (それぞれ、未来時制、不定形の例) :

- (21) Вы будете заходить [IPFV-FUT-2PL] сегодня к Ивану Николаевичу?
今日イワン・ニコラーエヴィチのところに寄りますか?

(Рассудова 1982: 75)

- (22) —Пожалуйста, напечатай мне пару страниц.
数ページ印刷して。

—Хорошо. Что печатать [IPFV-INF]?

いいよ。何を印刷する?

(Рассудова 1982: 103)

阿出川 (2014) においては、この「一般的事実の意味」は、「状況の性質」が変化していることから、一次的アスペクトを表すのではなく、二次的アスペクトを意味するとみなしている (cf. 阿出川 2014: 78) が、これがそのうちのどのようなアスペクトの意味を表しているかと位置付けるべきなのか、そもそも何らかのアスペクトの意味を純粋な形で表すために用いられているのか、といった諸々の点については、「体」のカテゴリーが、アスペクトの意味以外の意味・機能を担って用いられうるという可能性を視野に入れつつ、今後より詳細な記述と分析を行なった上で、その最終的な解釈に際しては慎重な判断が求められるだろう。これらの点については、また稿を改めて検討を加えることとする。

文献

Авилова, Н.С. Вид глагола и семантика глагольного слова, Москва, «Наука», 1976.

Бондарко, А.В. Вид и время русского глагола (значение и употребление), Москва, «Просвещение», 1971. 【Бондарко (2005) に再録】

- Бондарко, А.В. *Теория морфологических категорий и аспектологические исследования*, Москва, Языки славянских культур, 2005.
- Зализняк, Анна А., Шмелев, А.Д. *Введение в русскую аспектологию*, Москва, Языки русской культуры, 2000.
- Караулов, Ю.Н. (гл. редактор) *Русский язык: энциклопедия*, Изд. 2-е, перер. и доп. Москва, Большая Российская энциклопедия; Дрофа, 1996.
- Петрухина, Е.В. *Русский глагол: категории вида и времени (в контексте современных лингвистических исследований): учебное пособие*, МАКС Пресс, 2009.
- Плунгян, В.А. *Введение в грамматическую семантику: грамматические значения и грамматические системы языков мира. Учебное пособие*, Москва, Российский государственный гуманитарный университет, 2011.
- Рассудова, О.П. *Употребление видов глагола в русском языке*, Москва, Изд-во Московского университета, 1968.
- Рассудова, О.П. *Употребление видов глагола в современном русском языке*, Москва, «Русский язык», 1982.
- Татевосов, С.Г. *Акциональность в лексике и грамматике. Автореферат Диссертации на соискание ученой степени доктора филологических наук*, Москва, 2010. 【電子版を参照】
- Храковский, В.С. *Семантика вида (опыт исчисления) // Основные проблемы русской аспектологии*, Санкт-Петербург, «Наука», 2002, pp. 190-200.
- Comrie, Bernard, *Aspect. An introduction to the study of verbal aspect and related problems*, Cambridge: Cambridge University Press, 1976.
- Vendler, Zeno, *Linguistics in Philosophy*, Ithaca, New York: Cornell University Press, 1967.
- 阿出川修嘉『現代ロシア語におけるモダリティとアスペクトのカテゴリーに関する一考察：可能性のモダリティと体のカテゴリーの相関関係について』東京外国語大学博士論文（博甲186号）、2014年。